

とやま

森林研究所

だより



自然界で発生している天然のエノキタケ（有峰）



とやまたけ1号（野生型エノキタケFv-1）



立山小学校での野生型エノキタケの栽培体験



立山小学校での野生型エノキタケの収穫体験

- ◆ 巻頭言 県民の安全と森林・林業の発展のために
研究の推進目標と平成27年度の主要研究課題について
- ◆ 研究情報 「野生型エノキタケ栽培技術の開発」
- ◆ お知らせ 平成27年度森林研究所試験研究成果発表会の開催
多くの研究員が各分野で評価され受賞
平成27年度夏休み子供科学研究室の開催
- ◆ 人事異動

No.13



県民の安全と森林・林業の発展のために

所長 野村 光蔵

森林研究所では、平成24年12月策定の「富山県農林水産試験研究推進プラン（平成24～28年度）」に掲げる3つの推進目標の実現に向け、広く県民や林業関係団体等の要望を踏まえ、今年度の試験研究課題に取り組んでまいります。

主な取組みとして、まず、「水と緑を育み県民生活の安全・安心に貢献する森づくりの推進」では、引き続き、県内の森林の動態や森林の環境をモニタリングすることとしております。特に、「ブナ、ナラ類の種子の豊凶モニタリング」では、県内でクマの大量出没があった翌年の平成17年度から、毎年8月に合計39箇所でブナ、ミズナラ、コナラの着果状況を調査し、秋の作柄を4段階（豊作、並作、不作、凶作）で推定し、結果を自然保護課を通じて公表しています。

次に、「森林・林業の再生を推進する技術開発」では、優良無粉スギ「立山 森の輝き」をはじめとするスギ苗木の育苗体系の確立を目指しています。具体的には、今年度から新たに、農業用資機材を使用した省力化技術の開発に取り組む春に集中する移植作業等の平準化を目指します。また、低コスト挿し木苗生産を可能にするため、県内の「立山 森の輝き」植栽地において、成長や形質などの特性の検定調査を行っています。

さらに、「地域特性を活かしたキノコ等の生産技術の開発」では、新たに、里山での栽培に適し、機能性が注目されるカワラタケの優良系統を選抜し、野外での栽培条件や原木栽培技術を開発します。

当研究所は、本県の森林・林業の発展や山村地域の振興のための試験研究課題に積極的に取り組んでまいりますので、今後とも、ご理解とご協力をお願いします。

研究の推進目標と平成27年度の主要研究課題について

(1) 水と緑を育み県民生活の安全・安心に貢献する森づくりの推進

- ブナ、ナラ類の種子の豊凶モニタリング調査
- 里山林活用と整備を支援するモニタリング調査と林分構造評価

(2) 森林・林業の再生を推進する技術の開発

- (新) 農業用資機材を使用したスギ実生苗木生産の省力化技術の開発
- 優良無花粉スギ「立山 森の輝き」普及推進事業
- スギ林分における発電用木質バイオマス生産量予測モデルの開発

(3) 地域特性を活かしたきのこ等の生産技術の開発

- (新) 里山における機能性きのこカワラタケの栽培技術の開発

研 究 情 報

野生型エノキタケ栽培技術の開発

研究のねらい

エノキタケといえば、スーパーで売られている真白で傘が小さく柄が細くて株立ったきのこをイメージされるでしょうが、自然界の天然エノキタケは傘が大きく、柄は太くて、きのこの色は茶褐色で全体的に滑りを運び、通常のイメージと大きく異なります(表紙、写真)。天然エノキタケに近い形態で発生した野生型エノキタケは野生感のある新感覚のきのことして受け入れられることを期待しました。そこで、培地分解能や収量性に優れた系統Fv-1を選抜しました。また、きのこ栽培を実施するには滅菌施設、無菌室、空調設備等を必要としますが、それら高額の設備を必要とせずに簡便に栽培できる方法を開発しました。

研究の成果

エノキタケ菌糸体が培養基を完全に蔓延した完熟状態になれば、あとは発生操作だけです。発生操作は温度と湿度の管理ですが、野生型エノキタケFv-1であれば、12℃以下で発生可能となります。袋培養基の培地表面から袋上端までの高さを培地の高さの0.5~2倍に調整すれば、きのこの発生に必要な湿度を確保できることが分かりました。そこでシイタケ人工ホダ木を製造している上田産業(株)で完熟培養基(写真-1)の調整を担っていただき、農事組合法人いこいの杜(立山町)にて倉庫の室温が12℃以下となる11月下旬より培養基を設置して実証栽培を行っていただきました(写真-2)。設置から3週間後、子実体が良好に形成され、直販所で販売されました(写真-3)。野生型エノキタケは通常のエノキタケの単価の2~3倍の価格(200円/150g)で販売され、完売しました。

成果の活用

野生型エノキタケFv-1は「とやまたけ1号」として品種登録申請、簡易栽培法は「キノコの栽培方法」として特許出願を行いました。今後は、野生型エノキタケが農閑期に広く栽培されて富山の冬場の味覚として定着することが期待されます。



写真-1 野生型エノキタケの完熟培養基



写真-2 倉庫での栽培状況



写真-3 直販所での販売状況

《問い合わせ 森林資源課 高畠幸司》

お知らせ

◆ 平成27年度森林研究所試験研究成果発表会の開催

《と き》 7月2日(木) 午後1時30分から4時まで

《と ころ》 富山市高田527 富山県総合情報センター1階セミナー室

- 《課 題》 ● 「立山ルートの植生と利用に関する地理情報の統合」 大宮 徹
 一生態系の維持と持続的な利用のために—
 ● 「2014年のマイマイガ大発生がブナ科樹種の堅果生産に及ぼした影響」 中島 春樹
 ● 「野生型エノキタケの簡易栽培技術の開発」 高畠 幸司

◆ 多くの研究員が各分野で評価され受賞

受賞者	受賞	団 体
佐々木史研究員	研究奨励金	公益財団法人 ホクト生物科学財団
中島春樹主任研究員	優良職員表彰	富山県
高畠幸司森林資源課長	日本木材学会地域学術振興賞	一般社団法人 日本木材学会
斎藤真己主任研究員	日本森林学会賞	一般社団法人 日本森林学会
岡子光太郎副主幹研究員	森林技術賞	一般社団法人 日本森林技術協会

◆ 平成27年度夏休み子供科学研究室の開催

《内 容》 「森の草木を調べよう 一植物の名前と形、くらし方—」

森にくらしているいろいろな植物。特ちょうが書かれたカードを手がかりに森の中をさがします。何種類みつけられるかな? さまざまな植物の形とくらし方から、生き物の多様性の意味を考えます。みつけた植物は標本を作って持ち帰れます。

《と き》 7月28日(火) 午後1時から4時

《と ころ》 森林研究所構内及び林業普及センター研修室(立山町吉峰)

《対象・人数》 小学4～6年生 10名(保護者同伴可)

《申し込み方法》 電話、FAXまたはE-mail (ohmiya@fes.pref.toyama.jp)

《申込先》 森林研究所(担当:大宮徹) 《締め切り》 7月23日(木)

人事異動

平成27年4月1日付人事異動は次のとおりです。

氏 名	新	旧
野村 光蔵	森林研究所 所長(転入)	森林政策課 森林整備班長
松井 俊成	森林政策課 森づくり推進班主幹(転出)	森林研究所 副所長
相浦 英春	森林研究所 副所長・森林環境課長(昇任)	森林研究所 森林環境課長
長谷川幹夫	森林研究所 森林資源課上席専門員	森林研究所 所長
嘉戸 昭夫	退 職	森林研究所 森林資源課主任専門員

とやま森林研究所だより No.13 (平成27年5月31日)

編集・発行 富山県農林水産総合技術センター 森林研究所

〒930-1362 富山県中新川郡立山町吉峰3

電話 (076) 483-1511 FAX (076) 483-1512

http://www.fes.pref.toyama.jp/